

名古屋の安全教育センターに「実践想定型模擬プラント」を新設

安全操業はメーカーの使命 安全教育・啓発活動をますます強化

三洋化成工業株式会社
(証券コード 4471)

工場の機械化、自動化が進み、設備や機械の動作原理や構造がブラックボックス化する中で、操業技能の継承が課題となっています。この課題への対策の一つとして、三洋化成工業株式会社（本社：京都市東山区、社長：安藤孝夫）は、名古屋工場（愛知県東海市）敷地内の「安全教育センター」に、設備・プロセスの原理・原則教育やプラントでの各種トラブルを疑似体験できる「実践想定型模擬プラント」を新設しました。4月より従業員等に対して、本模擬プラントを活用した安全教育を開始しています。

【新設備の概要】

「安全教育センター」は、メーカーの使命である安全操業を続けていくための教育・啓発活動を行う施設として2012年2月に名古屋工場敷地内に開設したもので、9つの疑似体験（危険体感）装置を備え、生産部門の従業員を対象に、これまでにのべ660名の安全教育を行ってきました。今回この安全教育センターに、以下の設備を追加しました。

1. 実践想定型模擬プラント

生産工場での操業自動化の弊害を克服するために、オペレーション技能を訓練する設備として実践想定型模擬プラントを新設しました。実際に仕込み・輸送・温度調節が可能な300L級のパイロットレベルの設備です。ここで、①トラブルシューティング、②設備やプロセスの原理原則、③制御ロジック（DCS）についての教育を行います。初級・中級・上級と3つの教育プログラムを用意しており、プラント技能の習熟度に合わせて実際に模擬プラントを操作、設備の仕組みや自動化の方法を理解したうえで、あらかじめ設定されたトラブルを自力で解決していきます。

2. 疑似体験（危険体感）装置の充実化

従来の9つに加えて、新たに6つの疑似体験装置（静電気・油圧プレス・配管からの液飛散・指差呼称の効果・突沸・工具すべり事故）を設置しました。危険を疑似体験することで作業者が危険予知能力を身につけ、安全への感受性を高め、労働災害や事故を未然に防ぐことを目指しています。

【今後の予定について】

安全教育センターでは、今後も実践想定型模擬プラントや疑似体験装置を順次追加していく予定です。今後も、拡充した設備を用いて、さらなる安全意識の向上を図り、安全の徹底を実践していきます。

安全教育センターは一般の方へは公開していませんが、企業等の見学・取材はお受けいたします。

<参考資料>

模擬プラント（右奥が計器室に相当）



<本件に関するお問い合わせ先>
三洋化成工業株式会社 広報部
電話 075-541-4312